



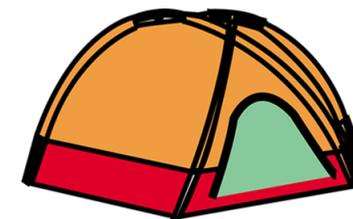
テントの輸入

輸入額は7年連続の増加、新潟港の輸入額が増える

1990年代半ばをピークに減少していたが、2009年以降、7年連続の増加。

月別では、4月が輸入のピーク。

東京税関管内の東京港、新潟港の2港で全国の輸入額の半分以上を占める。



はじめに

もうすぐゴールデンウィークが始まります。家族や友人と、キャンプなどアウトドアを楽しむ方も多いのではないのでしょうか。

アウトドアを楽しむための用品には様々なものがありますが、代表的なアウトドア用品の一つに「テント」があります。

今から20年ほど前に、アウトドアブームによりテントの輸入額が急増した時代がありました。

その後、ブームが沈静化し、輸入額は減少しましたが、近年、アウトドア志向の高まりにより、再び輸入額が増加しています。

昨年（2015年）のテントの輸入額は63億円で、2009年以降、7年連続の増加となっています。特に、港別の輸入額で、新潟港の増加が大きくなっています。

近年、テントを含めアウトドア用品には、高級感やデザイン性の高い商品が登場しており、女性にも受け入れられているようです。

今回は、20年の時を経て、再び輸入額が増加している「テントの輸入」にスポットを当ててみました。

本特集の「テント」は、輸入統計品目番号6306に分類される以下のものについてまとめたものです。

（1988年～2006年）

- 6306.21-000 綿製のもの
- 6306.22-000 合成繊維製のもの
- 6306.29-000 その他の紡績用繊維製のもの

（2007年以降）

- 6306.22-000 合成繊維製のもの
- 6306.29 その他の紡績用繊維製のもの
 - 100 綿製のもの
 - 900 その他のもの

※1988年以前は「テント」を特定できる統計品目番号はありません。

輸入動向

輸入額は7年連続の増加

テントの輸入額は7年連続で増加しており、2015年の輸入額は63億円で、過去4位の額となっています。

過去からの推移を見ますと、1990年代中頃に輸入額が急増しており、1996年が過去最大（91億円）となっています。

1990年代中頃にはアウトドアの一大ブームがありました。いわゆるRV車が大ヒットし、自動車でキャンプに行く「オートキャンプ」が盛況となり、同時にテントの輸入額も急増しました。

その後ブームは沈静化し、輸入額も減少しましたが、近年、再度増加傾向にあります。

テントの需要はキャンプ用途の需要が大きく、子供のいる30～40歳代のファミリー層が中心となっています。

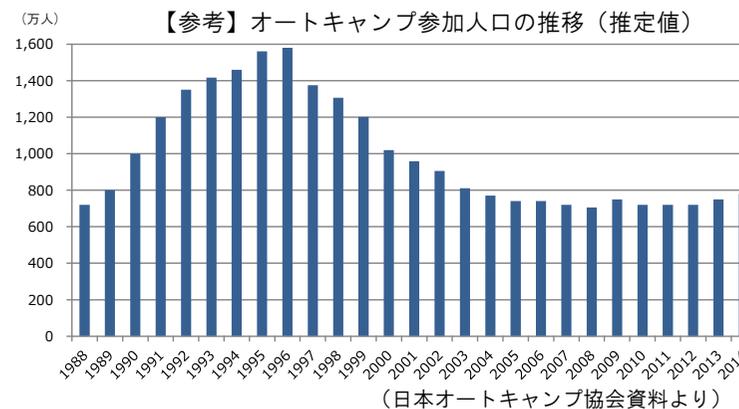
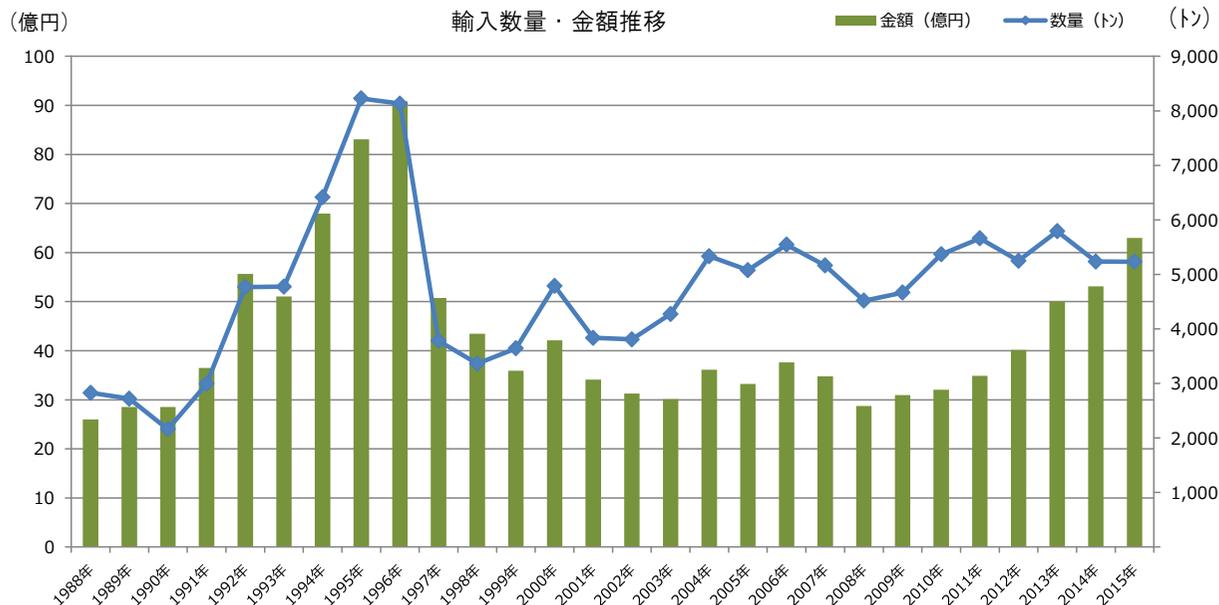
この世代には、第二次ベビーブームにより人口が大きくなっている年代を含みますが、過去のブーム時にキャンプを経験している人が多く、また子育て期にあることから、テントの需要を牽引しているようです。

また、最近の傾向として、20歳代と50歳代が増加しているとのことです。

20歳代については、女性だけでキャンプを楽しむグループなどが増加しており、50歳代は子育ての終わった世代がレジャーとしてキャンプを楽しんでいるようです。

さらに、キャンプ用品のカラーリングやデザインの多様化により、キャンプ自体がファッションの一部としても受け入れられているとのことです。

なお、輸入額は増加していますが、数量（kg）については横ばいとなっています。これは、主にテントの軽量化が影響しているものようです。



輸入動向（港別）

新潟港の輸入額が急増

テントの輸入額を港別に見ますと、1990年代半ばのアウトドアブームの時代は、輸入港の入れ替わりが激しくなりましたが、1999年以降は東京港が連続して1位となっています。2015年は全国の輸入額の31.8%を東京港が占めています。

2位は新潟港で、2013年以降、特に輸入額が急増しています。

新潟県の三条市、燕市を中心とした県央地域は金属加工業の盛んな地域ですが、金属加工業から派生したアウトドア・キャンプ用品のメーカーも多数所在します。

キャンプの人気の再燃により、これらのメーカーによるテントの輸入が増加している

ことが、新潟港の輸入増加要因のようです。

2015年の実績では、新潟港が全国の輸入額の23.6%を占めており、東京港、新潟港の2港で全国の輸入額の55.3%を占めています。

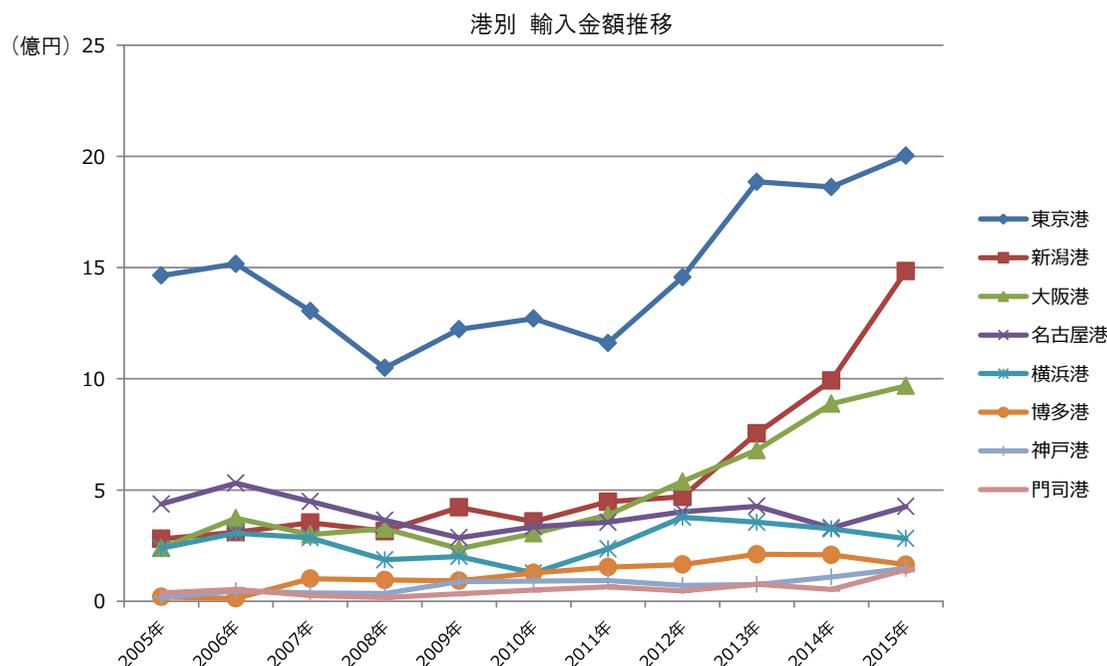
3位の大阪港についても輸入額が増加しており、新潟港と同様に、アウトドア・キャンプ用品のメーカーによる輸入の増加によるものようです。

税関別 輸入数量・金額（2015年）

税関	数量 (kg)	構成比	金額 (千円)	構成比
東京税関	2,795,159	53.4%	3,619,848	57.4%
横浜税関	210,279	4.0%	391,439	6.2%
神戸税関	352,487	6.7%	334,645	5.3%
大阪税関	609,893	11.7%	1,035,866	16.4%
名古屋税関	491,110	9.4%	448,601	7.1%
門司税関	528,957	10.1%	313,196	5.0%
長崎税関	21,072	0.4%	7,941	0.1%
函館税関	130,467	2.5%	112,453	1.8%
沖縄地区税関	92,990	1.8%	37,538	0.6%
計	5,232,414	100.0%	6,301,527	100.0%

港別 輸入数量・金額（2015年）

港	数量 (kg)	構成比	金額 (千円)	構成比
東京港	1,907,140	36.4%	2,002,696	31.8%
新潟港	863,322	16.5%	1,484,047	23.6%
大阪港	588,057	11.2%	968,244	15.4%
名古屋港	480,183	9.2%	425,575	6.8%
横浜港	152,955	2.9%	281,862	4.5%
博多港	300,383	5.7%	164,016	2.6%
神戸港	218,632	4.2%	147,594	2.3%
門司港	222,607	4.3%	140,978	2.2%
その他	499,135	9.5%	686,515	10.9%
計	5,232,414	100.0%	6,301,527	100.0%



輸入動向（月別）

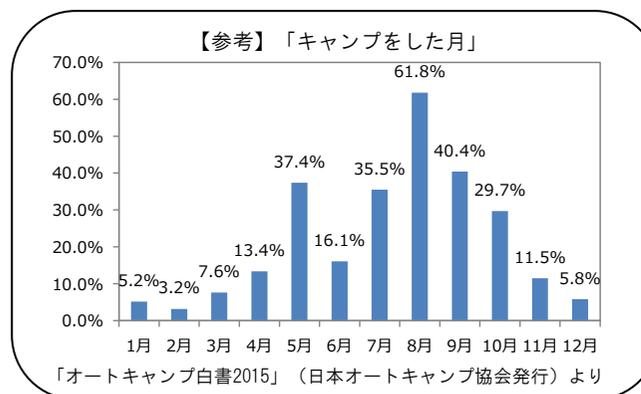
月別では4月が輸入のピーク

テントの輸入額を月別に見ますと、春から夏にかけて輸入額が増加し、例年4月頃にピークを迎えます。

キャンプのシーズンは5月から10月で、ピークは夏休みの8月、次いで連休のある9月、ゴールデンウィークのある5月となっています。

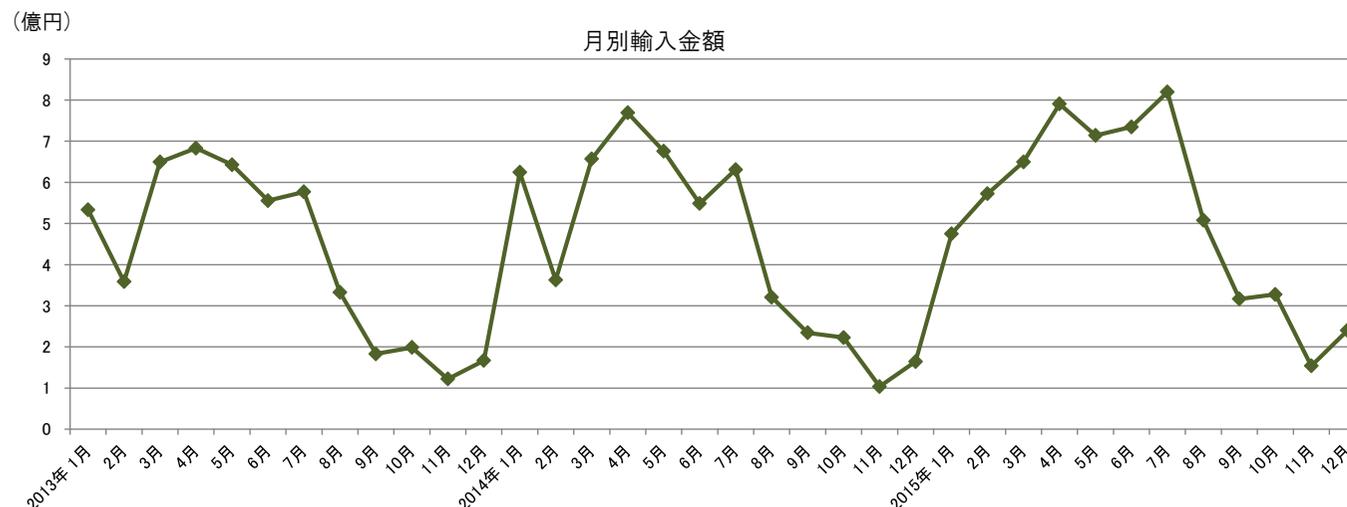
このような需要の増加する時期に販売するために、商品はそれより前に輸入されます。そのため、春から夏に輸入額が増加しているものと考えられます。

なお、近年は、春から秋のシーズンだけでなく、「年越しキャンプ」など、冬場のキャンプを楽しむ人も増えているようです。



月別 輸入数量・金額

年月	数量 (kg)	金額 (千円)
2013年 1月	676,063	533,247
2月	394,700	358,386
3月	809,071	649,386
4月	770,663	683,046
5月	703,864	642,825
6月	664,597	555,580
7月	691,625	576,878
8月	383,173	332,690
9月	204,344	182,918
10月	181,542	198,521
11月	116,131	122,223
12月	196,330	166,885
2014年 1月	604,444	624,429
2月	349,963	362,380
3月	677,211	656,955
4月	769,260	769,043
5月	668,699	675,523
6月	615,987	548,474
7月	609,446	630,890
8月	319,247	320,757
9月	221,511	234,421
10月	147,562	222,658
11月	101,458	103,570
12月	150,256	164,222
2015年 1月	381,694	474,899
2月	434,502	572,301
3月	520,707	649,512
4月	700,320	790,498
5月	660,135	713,962
6月	709,467	734,719
7月	705,437	819,492
8月	348,787	507,925
9月	241,670	316,694
10月	239,925	327,647
11月	122,238	153,776
12月	167,532	240,102



輸入動向（国・地域別）

8割が中国から

テントの輸入を国・地域別に見ますと、輸入額のほとんどを中国が占めており、2015年の実績では輸入額の81.0%が中国となっています。

過去からの推移を見ますと、1990年代初頭までは韓国が1位でしたが、その後中国が増加し、1995年以降は連続して中国が1位となっています。

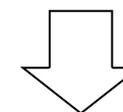
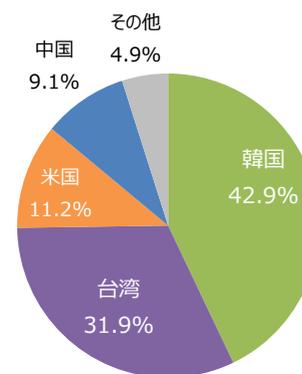
中国製が多い理由としては、人件費など製造コストの低さに加えて、生地や金属部品などの素材メーカーが揃っていることなどがあるようです。

なお、貿易統計は「原産国」別の統計ですが、業界によれば、韓国のメーカーが中国で製造しているものも多いとのことです。

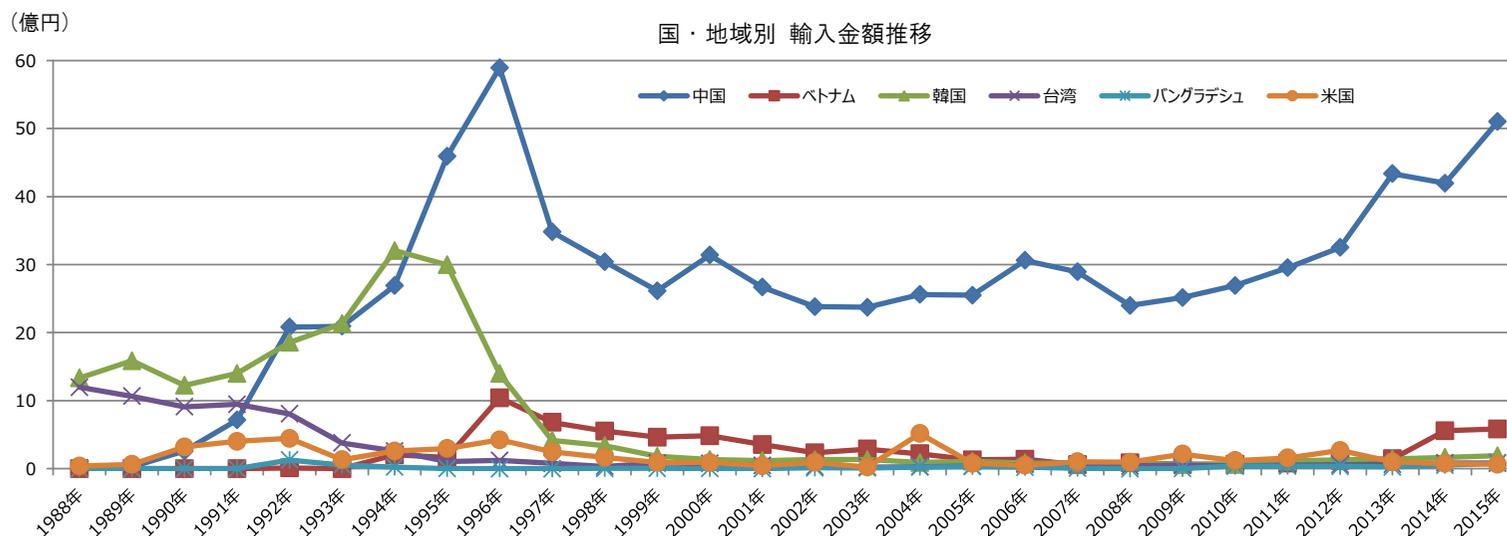
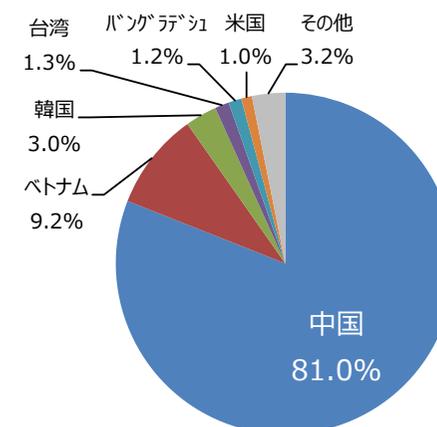
輸入数量・金額（2015年）

地域/国	数量 (kg)	構成比	金額 (千円)	構成比
中国	4,457,480	85.2%	5,101,616	81.0%
ベトナム	498,654	9.5%	582,268	9.2%
韓国	85,862	1.6%	190,531	3.0%
台湾	29,974	0.6%	84,852	1.3%
バングラデシュ	76,657	1.5%	78,032	1.2%
米国	11,931	0.2%	64,676	1.0%
その他	71,856	1.4%	199,552	3.2%
計	5,232,414	100.0%	6,301,527	100.0%

国・地域別構成比
（金額・1990年）



国・地域別構成比
（金額・2015年）



最近のテント事情

一口にテントといっても、山岳用の小型のテントからキャンプ用の大型のテントまで、様々なタイプがあります。

キャンプに用いられるテントには、寝室だけの「ドーム型」、次いでリビングと寝室が一体になった「ツールーム型」、家のように角ばった形の「ロッジ型」、円錐形の「ティピー型」などがあります。

近年は、「ツールーム型」や「ティピー型」の人気の高まっているようです。

現在のテントは、高機能で高価格帯のものから、形や色などのデザイン性が高いものまで、バリエーションも豊富になってきており、ユーザーの選択肢が増えています。

特に女性や若い人には、小型で個性的なテントが人気とのことです。

かつての単一的で無骨なイメージとは異なる、高級感やファッション性のあるテントが登場し、人気を博しているようです。



テントの輸入数量・金額

年	数量 (kg)	前年比	金額 (千円)	前年比
1988年	2,826,702	-	2,601,917	-
1989年	2,720,349	96.2%	2,853,556	109.7%
1990年	2,159,655	79.4%	2,854,521	100.0%
1991年	2,992,882	138.6%	3,650,289	127.9%
1992年	4,767,671	159.3%	5,567,174	152.5%
1993年	4,776,356	100.2%	5,107,359	91.7%
1994年	6,417,159	134.4%	6,796,137	133.1%
1995年	8,226,466	128.2%	8,309,047	122.3%
1996年	8,130,959	98.8%	9,081,433	109.3%
1997年	3,781,999	46.5%	5,075,668	55.9%
1998年	3,362,657	88.9%	4,348,535	85.7%
1999年	3,642,233	108.3%	3,594,897	82.7%
2000年	4,789,907	131.5%	4,212,212	117.2%
2001年	3,835,126	80.1%	3,412,566	81.0%
2002年	3,808,074	99.3%	3,130,017	91.7%
2003年	4,272,883	112.2%	3,016,340	96.4%
2004年	5,333,760	124.8%	3,611,537	119.7%
2005年	5,078,633	95.2%	3,322,530	92.0%
2006年	5,544,868	109.2%	3,765,148	113.3%
2007年	5,163,043	93.1%	3,480,583	92.4%
2008年	4,517,530	87.5%	2,875,166	82.6%
2009年	4,665,823	103.3%	3,095,823	107.7%
2010年	5,368,338	115.1%	3,205,821	103.6%
2011年	5,660,642	105.4%	3,486,690	108.8%
2012年	5,248,676	92.7%	4,016,754	115.2%
2013年	5,792,103	110.4%	5,002,585	124.5%
2014年	5,235,044	90.4%	5,313,322	106.2%
2015年	5,232,414	99.9%	6,301,527	118.6%

取材協力：一般社団法人 日本オートキャンプ協会



東京税関

〒135-8615

東京都江東区青海2-7-11 東京港湾合同庁舎

<http://www.customs.go.jp/tokyo/>

貿易統計の数値はインターネットでも検索できます。

財務省貿易統計

検索

本資料を引用する場合、東京税関の資料による旨を注記して下さい。

本資料に関するお問合せは

東京税関 調査部 調査統計課 TEL:03-3599-6385